2023年8月23日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第12回（通算57回）

データ活用による野球界の選手評価の変化

～教育にも起こりうる未来像

１．内容

１.定量的なデータ分析による選手評価の変化

２.データ分析による勝利の構造　　チームの勝率＝得点のｎ乗/（得点のｎ乗＋失点のｎ乗）

３.得点モデル(Runs Created)

４.勝率を上昇させる方法

５.技術革新による現場へのデータ浸透

６.捕手のキャッチング能力による失点抑止

７.内野手・外野手の守備力評価

８.球団や外部組織による選手の改造

２．所感

本日は、野球のデータ利活用ということで、参加者も中学生、野球名門高校からも参加者がいました。私が野球界におけるデータ活用を知ったのは、２０００年初頭、アメリカの貧乏球団が、データ分析により、既成概念を取り払い、年間最高勝率、最多勝利数を記録した頃です。勝利の為の重要指標を分析し、低い年棒だが有能な選手を集めて勝利を重ねたというものでした。例えば出塁率。そうなると選球眼、慎重性が大事となる、ということです。それから２０年以上経った今、岡田さんからその進化を見せていただきました。難しいことは省きますが、ポイントは、データ活用の目的を設定すること。そして、その目的を達成するための要素を分解して、重要だろう要素に焦点を絞ること。評価される項目が評価される人のプラス評価になること、それまでの評価指標と並行で活用していくことと感じました。お話では、目的：勝率を上げる→（いくつかの分岐の一つ）得点を増やす→長打を打つ→打球速度を上げる→スイングスピードを上げる→筋量を増やす。実際には分岐するので、要素はとても多くなります。その中から、重要なものを選び、データで実証しながら活用していく。例えば、分析の結果、いいバッターは強い打球を２０～３５度の角度で打つ。これは、結果だけでなくプロセス評価が可能になってきているとのことです。もう一つ、キャッチャーの捕球技術で、年間５０点ぐらいの差が生まれる！それにより審判の判定やコーチの指導も変わってきている、それまで取れなかったデータが技術革新で取れるようになって、わからなかったことがわかるようになったから出来たと言われました。私は野球経験者なので、打点も防御率も評価が小さくなっていることにはなじみませんが、新しい指標が加わることには、納得感があります。教育もそれでよいのではないでしょうか。

質問では、将来伸びる選手は予測できるのか？回答は、まだわかっていない、でもヒントはあり、アメリカでは、選手の性格、行動様式をデータでとっており、協調性のある人をドラフトして、強くなったチームがあるという。また、今年の甲子園の話になりましたが、決勝に進んだ２チームは、と

もにデータ分析を物凄くやっているチームとのことです。最後に、中学生からの質問を紹介します。将来野球のアナリストを目指しています、今、やっておくべきことは何ですか？回答は、数学・物理は野球をやるうえでは欠かせないものになっている、合わせて、野球＋医療、＋性格、＋体や脳の働きまで、色々なものが分析の対象になるので、野球を見ながらどんなことが分析対象になるか考えてほしいということでした。進化は止まらないですね、そして最後は、しっかり教育の話になりました（よかった、笑）

　岡田さん、本日は教育界のデータ利活用に最高のヒントをいただく素晴らしいお話でした。今回は選手評価の話でしたが、いつか戦略・戦術についてもお話しいただければと思います。誠にありがとうございました。

以上